

地域に根差した浜風会

浜風会は二年前より日頃の会場、篠原協働センターを飛び出し、各町の集会所を中心にその町の「宝物を見てみよう」と、特別例会を行ってきました。その魅力は実際歩いて見て回ることと、会員以外の人にも呼びかけることで、今回はその馬郡版です。

「馬郡の宝物を見てみよう」の特別例会
令和二年十二月三日、馬郡自治会が新設した集会所「つどいの家」で多数の地域住民も参加し、浜風会の出前講座と現地見学会を実施しました。

講座では「馬郡という地名の由来について」や、「藤田権十郎家のルーツ」、更に「馬郡観音堂」のこと等説明の後、外に出て馬郡の宝物を見て回りました。



先ず藤田権十郎家の長屋門からです。武家屋敷で見られた門の形式で、門の面側が部屋になっていて、旧家で新田の開墾等で知られた藤田家の往時が偲ばれます。続いて県道を渡って十五軒程ある藤田家のお墓を見学し、藤田家のルーツも伺い知ることができました。
続いて車で馬郡観音堂跡地へ回って、この周辺を見学しました。観音堂の由来等の説明を聞いた後、日露戦争の忠魂碑、津島様の説明を聞いて、お参りした人もおりました。続いて隣接する児童公園は、明治七年から昭和元年まで馬郡学校があった所です。このようにこの観音堂地域一帯は、馬郡のルーツが眠っている地であることを改めて知りました。

涅槃図(ねはんず)の拝観

坪井町にある東光寺では、二月十三日に恒例の涅槃会が行われ、檀家の河合家から寄贈された涅槃図が初披露されました。浜風会においても拝観したいと、任職にお願したところ快く承諾していただき、実現しました。
二月十八日、涅槃図の拝観には、多数の浜風会会員が出席、事前に「お釈迦様」にかかる予備知識を学習した後、任職のわかりやすい絵解き解説を熱心にお聞きし、投薬の語源等も知ることが出来ました。会員から多数の質問が出て任職を困らせる程盛り上がりました。
お釈迦様のお亡くなりになった様子を描いたこの貴重な「涅槃図」を、ありがたく拝観することができた一日でした。

(藤田博辞)

第38号、他頁の紹介
2頁：共同風呂
3頁：について
4頁：歴史好きが会員に

昭和四十年代まであった 篠原の共同風呂

篠原地区には集落毎に組織された「共同風呂」がありました。姿を消してから早や五十年程が経過しましたが、浜風会会員と当時利用していた方々の協力をいただき、詳細に調査しました。調査のまとめは「篠原地区共同風呂調査記録―浜風会2016年」として浜松市中央図書館に収めました。(閲覧可能です)

「共同風呂」とは

主に農村地帯において集落内の何軒かの家が仲間を組織し、共同の浴場施設を設け、湯沸かし作業の当番制等の協力関係を維持しながら、仲間の家族全員が、毎日入浴出来るようにした仕組みである。

背景には、各家に風呂が無い時代に、田畑作業等で汚れた体をもっと気持ちよく清潔に出来ないかとみんなで話し合い、共同の風呂を作ろうと立ち上がったもので、県内では浜名湖周辺に集中しているのが特徴と言われている。

「篠原地区の共同風呂」調査結果

『浜風と街道』で既に紹介されているが、更に一歩突っ込んで共同風呂毎に調査票を作成し、協力者に書いていただいた。下表並びに次頁の図はその結果をまとめたものである。

現在の自治会で「駅前」には無かったことと、篠原では面で繋がっているのので、対象集落を離れて参加していたことがわかる。

篠原地区の共同風呂調査まとめ

No	自治会区分	共同風呂所在地	調査者(敬称略)	参加集落	参加世帯数	いつから	いつまで
1	篠原東	立場	鈴木好征	立場、東山 柏原	40~50	不明/	昭和40年頃
2		東本村	鈴木忠	東本村	40	不明	不明
3		西本村	鈴木計一	西本村、東八幡 又三山、 *西八幡、*立場	100	不明	不明
4		三分一	鈴木義徳	三分一、籠山 又三山、北山	70	大正末期?	昭和40年代初期
5	篠原西	札木	鈴木とよ子	札木、*八幡	80~90	昭和初期	S42、43年
6		仲村	山中道弘	仲村、出口 *札木、*権現	88	昭和初期	昭和37年
7		権現	鈴木照義	権現、田畑、 *西茶屋	60	昭和6年に在り	S42、43年
8		東国方	鈴木坂江	東国方、西国方	40	明治から	昭和40年頃
9		鳥守	鈴木睦治	鳥守、西茶屋 折口	81	不明	S42、43年
10	坪井	坪井新田	山下二郎	坪井新田、太田	100	S20年頃	昭和43年
11		仲山	山下勝彦	仲山	最初37	昭和初期	S42、43年
12		中組	榊原眞登	中組	約40	不明	昭和40年頃
13		西組	江間賢一	西組	40	昭和初期	昭和45年頃
14	馬郡	東馬郡東	鈴木理市	東馬郡東	50~80	大正末期	S47、48年
15		東馬郡西	刑部傳志	東馬郡西	80→40	不明	不明
16		西馬郡東	藤田博辞	西馬郡東	約70	昭和初期	昭和45年
17		西馬郡西	渡辺勇	西馬郡西	約80	不明	S32年火災

注) 参加集落欄の*印はその組の一部が参加していたことを示す

共同風呂は地域の絆づくりに大きな力

① 参加世帯が毎日交代で当番を受持つ
 仕事は朝から前日のお湯を排水し、湯舟はじめ風呂全所に亘って掃除、そして水汲みから湯沸かし。夕方五時には住民が入りに来る。湯加減をしながら夜十時頃まで、一家総出で取り組んだことが思い出される。気の抜けない一日だった。

② 新は各家庭で準備した

浜の峠の松林から「こをかく」と言ってお松葉を集めてきたり、落花生の殻や糞、落ち葉、日番木材等へもらいに行く等、一週間位前から思い思いに準備していた大変な仕事だった。

③ コミュニケーションの場

その日の出来事、農作業の進行、出来具合、学校のこと、世間話等、文字通り裸の付き合いで集落の様子がよくわかる憩いの場、子供達の遊び場でもあった。

④ 篠原の共同風呂は男女混浴

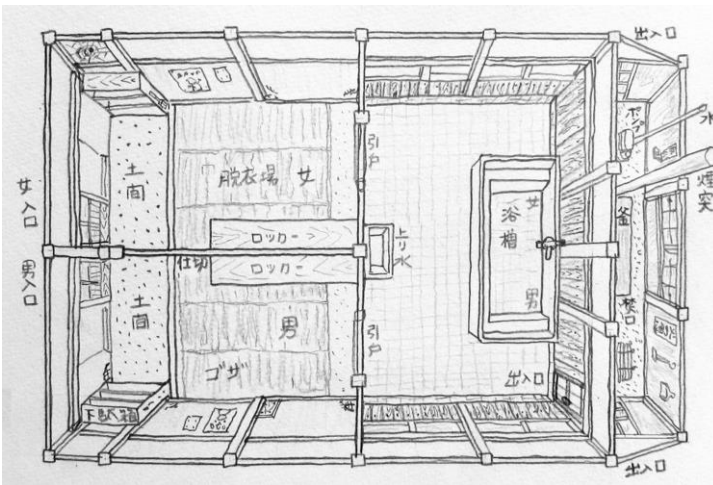
共同風呂の様子は下図のとおりで、浴槽、洗い場には仕切りが無かった。

混浴は当時誰も何とも思わない自然体で行われていた。身体の汚れをきれいにし、温まり健康的になることを優先

先し、最小限の設備で出来ていた当時の事情があったことだろう。今思つと若い女性には酷なことであった。

⑤ 自然に消滅

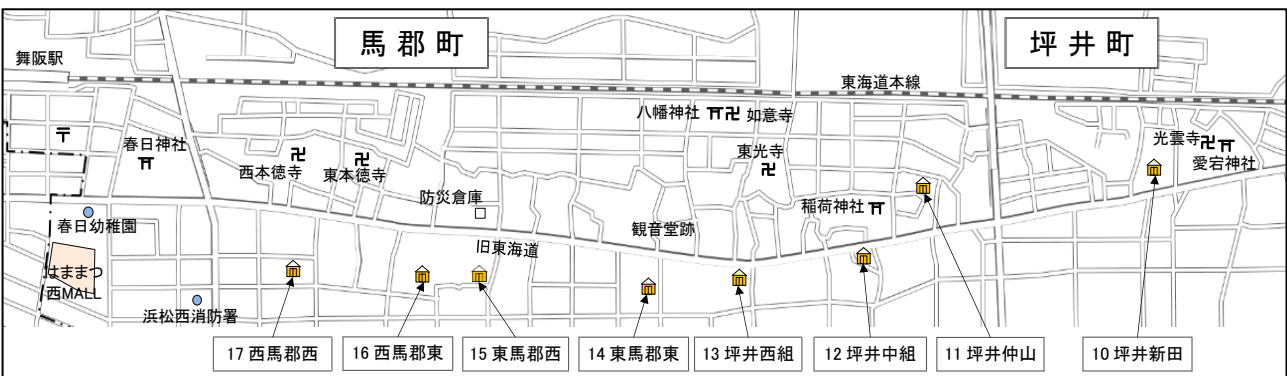
高度成長につれ、新築等で風呂を家の中に作る家庭が増え、参加者が減るに伴い、共同風呂は維持できなくなって消滅した。(山下勝彦)



「共同風呂」建物内部の概略図
 これは坪井仲山のものであるが、他も概ね同様であった。



共同風呂の所在図
 地図は現在の地図で表している



賀久留神社が歴史好きの発端

浜風会会員 松下公子

私が浜風会に入会したのは、回覧板で「しのはら歴史便り」を読んで、浜風会で学習することで、篠原地区のことをもっと知ることが出来るのではないかと思ったことです。

私が歴史好きになったのは、幼い頃から実家のある神ヶ谷町の昔のことに、触れる機会が多かったことによるものだと思います。

先ず第一は、幼稚園に通った道筋にあった賀久留神社（貞観四年（863）の存在の記録がある）や、敬雲寺の苔むした屋根、崖に掘られた防空壕の跡を日々目にしていたことで、昔の

人々の生活を身近に感じたことです。毎日、通るたび大昔の人々がそこを歩いたり触れたりしたのだと思うと、怖いような気持ちと共に昔の人に会えるようなわくわくした心持ちになったものです。

次の大きな理由は、小学校高学年の頃、みかん畑の造成をしたおり弥生式土器（古墳時代の須恵器だったかも）が出てきたことです。我が家の畑は、三方原大地の際にあるため、山の斜面に泉が湧いていました。生活用水もあり日当たりも良いことで、昔の人たちにとっても住みやすいところであったのではと、空想を膨らませました。

その他にも近所の家で井戸を掘ったとき、ソウの牙が出てきたという話、お宮の石垣の石を浜松城築城のとき、持っていかれたという話など、いろいろなところに様々な時代の痕跡が残っているところに育ったことが、私の歴史好きに影響していると思います。

結婚して馬郡に住むようになり、自宅の横にあるお堂（今は防災倉庫）が行き倒れた旅の巡礼の霊を供養するものであったこと、馬郡町は半農半漁であったので、我が家には海産物を入れる倉もあったことなど、興味深い話を知ることが出来ました。千年も前から人々が往来していた私たちの郷土の歴史を浜風会で学んでい

きたいと思えます。

写真は神ヶ谷町の賀久留神社



本殿



拝殿



鳥居

浜風会会報第38号
篠原協働のつどい「浜風会」
（篠原地区郷土の歴史を学ぶ会）
編集委員 委員長 山下勝彦
鈴木忠 鈴木理市
藤田博辞 山中道弘
発行責任者 山下勝彦
発行 令和3年7月1日